



data segment と code segment の関係性はこのようにグラフに表すことができる。その深さは有限で、よく通るパスに対して最適化をかけられるようにする。最適化前に一度プレ実行することで最適化対象を判別する。

SEDAのようにスループットを優先するか、nodeやlindaのように応答速度を優先するかを場合によって自動的に変える。このためにはdata segment にpriorityを付与できるようにする必要がある。priorityは data segment の持つ meta data segment が持つ。

これらを何で実装するかというのもある。

LLVM, GCC, PyPy, Go, Ruby, JVM, ... コンパイラを一から書いていく手もある。コンパイラレベルで最適化されずとも、CPUが冗長なコードの破棄等を行うので速度に大きな差が出ることはない。